



真心の行動
慈愛の奉仕
平和に挺身

1995—96年度国際ロータリーのテーマ

ハーバート G ブラウン
国際ロータリー会長

第2560地区——重 田 政 信
ガバナー——石 橋 育 於
会 長——捧 賢 一
会長エレクト——五十嵐 総 一
副 会 長——松 谷 昊 吉
幹 事——五十嵐 昭 一
副 幹 事——清 水 良 一
S A A——菊 池 涉

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び——三条市旭町2-5-10
事 務 局 三条信用金庫本店内
例 会 場——TEL 35-3311
TEL 35-3477
事 務 局——FAX 32-7095

本日出席会員数	80名中 56名
先々週出席率	92.00 %
前年同期出席率	

ヴィジター

三条南より

宗村輝昭さん、本道 彰さん、
吉井正孝さん、田中久作さん、
鈴木罔彦さん、田中康雄さん

三条北より 山上茂夫さん

燕より 相場紀一さん

吉田より 長谷川慎吾さん

先週のメイクアップ

5/23 燕へ

熊倉昌平さん、渡辺喜彦さん、
細井増雄さん

5/24 吉田へ 渡辺勝利さん

5/26 沼田中央10周年へ

石橋育於さん、松谷昊吉さん

5/27 三条南へ

斎藤弘文さん、藤田紘一さん、
古沢富雄さん、五十嵐力さん、
渋谷正一さん

5/28 三条北へ

野村竹三郎さん、渡辺喜彦さん

会長挨拶

会長代理 副会長 五十嵐総一

みなさんこんにちは、石橋会長が休みなのでかわって挨拶をします。

今日は大変暑く、私の心臓も暑さで弱っているようですが、今日は登壇して挨拶させていただきます。

本日は9名のビジターを迎え例会ができますことをお礼申し上げます。

先週からクラブアッサンブリが行なわれまして、着々と次年度の準備の態勢ができています。私も次年度は会長エレクトという責任を負うわけですが、こうして登壇をしてみますと、会長の責任は大変難しいと思います。

急速のバトンタッチでございますので、大変失礼ではございますが、本日の卓話に十分な時間を譲るため、挨拶はこれで終りに致します。

幹事報告

松谷幹事

◎三条市ふるさと運動推進協議会より
平成8年度定時総会開催のご案内がとどいております。

とき 6月10日(月)PM6:00～
ところ 二洲楼

◎西川月山RCより
認証状伝達式のご案内がとどいております。

とき 6月30日(日)PM12:30～
ところ 西川町開発センター
(山形県)

6月のお祝い

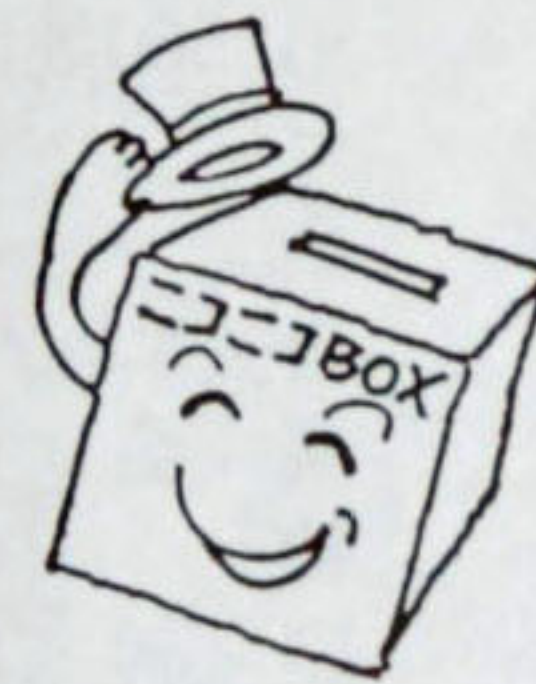
◎会員誕生祝

- 6日 石橋育於さん
- 6日 平原信行さん
- 9日 小柳直人さん
- 10日 杉野奎司さん
- 16日 五十嵐寿一さん
- 18日 高橋一夫さん
- 23日 林 光輝さん
- 24日 捧 賢一さん

◎結婚記念祝

- 5日 林 光輝さん
- 5日 小柳直人さん

ニコニコBOX



菊池さん

細井さん卓話ご苦労様です。落語の艶話集、かりっぱなしですみません。もう少しお願いします。

五十嵐(昭)さん

先日のファイヤーサイドミーティングには多くの会員の皆様の参加を得、ありがとうございました。

佐藤(吉)さん

都合により早退させていただきます。細井さんの卓話をお伺いできないで残念です。

山田さん

細井さん、今日御苦労様です。

五十嵐(晋)さん

早退させていただきます。

山浦さん

申し訳ありません。早退させていただきます。

斎藤(隆)さん

5月27日、新潟グランドホテルで信越郵政局長表彰を受けてまいりました。その節は、本道三条郵便局長さんには大変御世話になりました。

榎本さん

5月25日、下田村笠堀ダム附近で山菜採りに参加しました。帰宅はどうしたのか記憶にございません。

広岡さん

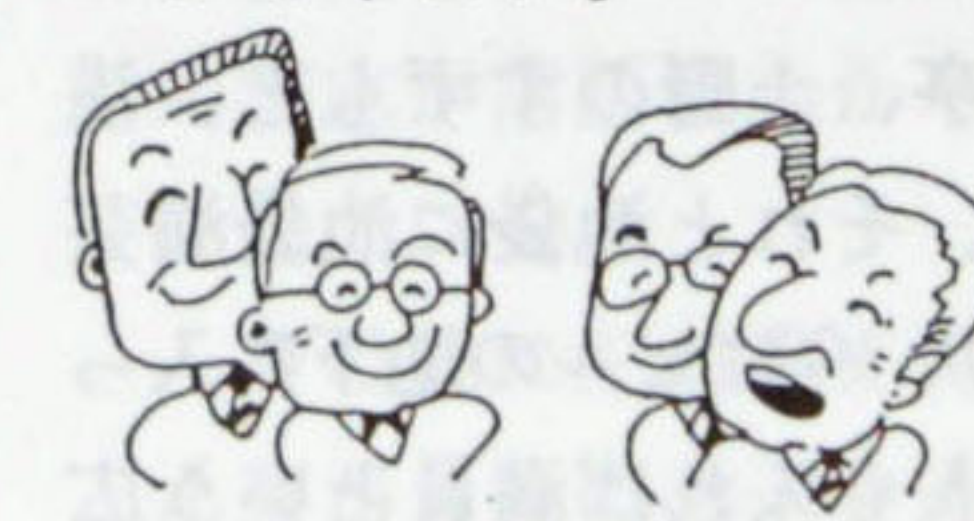
細井さんの楽しい卓話を聞かずに早退させて頂くことをおわびします。

佐野さん

細井さん！たびたびの卓話の変更をお願いし、すみませんでした。よろしくお願いします。

細井さん

5月17日優勝、昨日準優勝と最近ゴルフの成績がよろしいようで。本日の卓話、下手な話しですが、がまんして聞いて下さい。



5月29日分

¥12,000

卓話

趣味と思い出

細井増雄会員

今日は大変暑くなりましたが、まもなく6月です。昔は6月1日のことを“紋日”と言っていたことを思い出し、そのことについて少しお話しをしたいと思います。



紋日というのは、今の衣替えのことを言うのですが、今は5、10日と言って、5日、10日、15日、20日の日のことを東京では紋日と言ひ、交通情報でも今日は紋日で車が混んでいるなどと言うことを聞きます。昔は6月1日、10月1日の衣替えのことを紋日と言ったようです。

きょうは、落語の話をしよと思うのですが、その中でも有名な古典落語の最高傑作“品川心中”の話をしよと思います。これは郭の話の一つなのですが、古今亭しん朝が品川心中をやる時に必ず歌を紹介するのですが、“巻紙をやせる苦界の紋日前”苦界というのは、昔は花柳界に働きに出ることを苦界に身を沈めると言っていました。今ではこういう表現をする人もおりませんが……。

苦界の世界では衣替えの紋日の少し前になると、その度にひいきのお客様から新しい衣裳を買ってもらひ、紋日になるとお客様を招待して新しい衣裳のお披露目をしていた。その宴会を盛大にするために、芸者さんは巻紙を使って手紙を書き、ひいきのお客様になるべく多くの出資をしてもらおうと巻紙が細くなるまで、せっせと手紙を出していたという歌です。

しん朝の品川心中の枕には必ずこの歌が出て、これに尾を引いて話に入っています。

私の趣味という、落語は小学校時代から、またジャズは高校時代にマンボブームがあり、ジョージ川口のドラムが好きでジャズに入っていました。NHKラジオのリズムアワーは毎週必ず聞いていました。ということで、落語以上にジャズは詳しいんじゃないかと自負しています。でも、今日は落語の話をしてもらいます。

私の学生時代は、落語を聞いて、ジャズを聞いて、飲みに行ってという生活でした。明治大学の1年の時に真面目に勉強し、ほとんどの単位を取り、3年の2学期からは週に1回、4年になると週に1時間か2時間大学に行き、2学期になるとほとんど学校へ行かなくなりました。それでも東京にいたので時間があ、暇つぶしに遊びを覚えました。昨年壊されましたが、明治の記念講堂の前に居ると授業に出なくてもいい連中が集って来て、4~5人集ると雀荘に行き、3時頃まで麻雀をしていました。それから4時少し前に銭湯に行きました。その頃、風呂付のアパートはほとんどなく、銭湯の前で開店を待っていると銀座あたりで働いているお姉さん方と顔見知りになり、話を交すうちに私のことをクラブボーイさんと思っていたらしく、私が学生ですと言ったら驚いた様子でした。

夕方、寄席へ行って落語を聞き、寄席がはねるとジャズ喫茶へ行き、その後、一杯飲んで有楽町発12時29分の電車に乗り、東京駅で乗りかえて、信濃町の四谷

4丁目に住んでいましたので信濃町で下り、駅前ですぐおでんを食べ、飲み足りない時は文学座の前のパー街で飲み、午前3時頃に帰る時もあります。こういう生活を送っていました。

ある日、文学座の前の一軒のバーで古今亭しん朝と出会い、しん朝もジャズが好きで、ジャズの話をしてながら3時頃まで飲み、それから六本木のナイトクラブへ連れて行ってもらったこともあります。その後、明治大学にも落語研究会ができて、私も入ったのですが、その会の顧問にしん朝さんと立川談志さんが、柳屋こえんと言った時代この二人からなってもらい、落語の世界をいろいろと教えてもらいお世話になりました。

自慢する訳ではありませんが、私は寄席に行って、話し家が枕に入り、その人の枕を聞くと、今日は何の話をするなと言うことがわかりますし、出囃子を聞くと、誰が出て来るのかなということもわかります。

東京には今寄席が5軒あります。戦前は最高百軒近くあったそうです。有名なのは新宿の末広亭、上野のすずもと、浅草に演芸ホール、それと池袋に池袋演芸場と言うのがあり、今はビルの地下に入っていますが、50人も入れれば満員という広さですが、余りはやらない寄席で普段は2~3人しか入っていないようです。それと国立劇場が三宅坂にあります。これは国立演芸場と言ひ、歌舞伎などで有名な国立劇場の隣に位置し、国立小劇場と言ひます。ウィークデーは昼間しかやっていませんが、土曜は昼、夜やっている様です。寄席の入口には落語色物定席と

書いてありますが、落語や色物の常設の席ですよという意味で、色物というのは落語以外に出演する漫才、講談、手品、曲芸などのことを言ひます。落語と落語の間に手品をはさんだり、真打の前には必ず色物を出します。

真打の前に色物を出すことを落語の世界では、ひざ替わりと言ひます。真打というのは売れっ子の落語家がやる訳なのですが、昔は寄席が何軒もあったので、掛け持ちする訳ですから、真打がその寄席の時間に間に合わなかったり、都合で早く終わらせてしまった時などの時間の穴埋に色物を出すのです。寄席のプログラムを見るとわかるのですが、落語は黒い字で書いてあり、色物は赤とか違う色で書いてあります。落語とその他の出し物を区別する意味で色物と使い分けた訳です。

東京には今落語協会と芸術協会があります。落語協会は人間国宝の柳屋小さんが会長でしたが、今年から三遊亭えん歌が会長になり、芸術協会は桂米丸が会長です。この2つの他に立川流があり、立川談志が落語協会からケンカ別れして独立している。

その他に三遊亭えんしょうの弟子、えん楽が自分の弟子を連れて独立した円楽党があります。ですが、東京の5つの寄席には立川流と円楽党はほとんど出ません。芸術協会と落語協会が1ヶ月を上席、中席、下席と10日、10日に分け交互に興行していたのですが、7~8年前に芸術協会と上野のすずもとがケンカをして、すずもとは芸術協会の方は出ておりません。

31日のある月が1年に7回あり、その日は余一会と言ひ、若手の勉強会や話し家の独演会などを行っています。

今の寄席は正月以外はいつ行っても座って聞けるという状態です。ところが、正月3ヶ日はどこへ行っても満席で通路にもお客があふれる状態です。寄席はいつ入っても、いつ出てきてもかまいません。ですから東京へ出られたら一度寄席へ行き、落語あるいは漫才などを楽しんで来られるといいと思います。

私の勤める落語家は、古今亭しん朝、立川談志、春風亭小朝、その中でも将来を背負って立つのは、小朝だと思います。

雷さまの話し



(前回のつづき)

7. 雷さまの進行速度

普通の雷雲の半径は10~20km、時速20~30kmだから、早ければ20~30分遅くても1時間半ほど待てば雷雲は通過する。

8. 落雷事故による死傷者数

	件数	死者	負傷者
昭和42年	221	50	50
43	139	22	19
44	92	24	25
45	128	21	22
46	162	20	35
47	121	21	23
48	171	24	20
49	114	16	28
50	158	30	43
51	54	6	11

(途中経過)

9. 落雷による死亡事故例

- 昭和42年 水田作業中、感電死、腹巻きの自動車のキーに落雷
- 昭和42年 帰宅途中、金の入れ歯に落雷、即死
- 昭和42年 農作業帰り、男性のメガネに落雷、即死
- 昭和42年 西穂高で松本 深志高生徒11人落雷のため死亡
- 昭和42年 野球の試合中に落雷、高校生2人死亡、一人は帽子の金具、もう一人はバックルからスパイクへ。

10. 避雷針

建築基準法で高さ20mを超える建築物には、避雷針を取付けなければならない。しかし、雷の発生が多いところでは20m以下でも取付けなければならないが、逆に20mを超える建築物でも周囲の状況によって避雷設備を必要としない場合もある。

● 避雷針の構造は、突針部・避雷導線および接地電極からなっている。

突針部…突針の先端は、被保護物から25cm以上突出させる。

避雷導線…一般的に断面積30mm²以上（素線の径は2.0mm以上のもの）

接地電極…厚さ1.4mm以上で面積0.35m²(片面)以上の銅板または、これと同等以上の接地効果のある棒状・管状・帯状または、うず巻状の金属体を使用し接地

抵抗10Ω以下であること。

● 参考

テレビアンテナは避雷針より高くしないこと。

電撃を受けた家屋を屋根の種類別に検討した結果によると、草ぶき屋根の出火率は74%であるのに対して、鉄筋コンクリート造りは「0」である。

11. 雷のゴロゴロ音

雷は積乱雲ができた時におこる。積乱雲のなかは空気の流れが激しい勢いで上昇し、そのまわりの方は下降する。その上昇する気流はたくさんの水滴、氷の結晶をつくる。激しい上昇気流によって、たくさんの水滴をつくると、雲の中でプラスとマイナスの電気がおこる。雲の一番下はプラス、雲の中の大部分はマイナスになり、雲の上の氷の部分は、またプラスを持つようになる。この電気の分離が大きくなると放電する。放電する時、光と音を出しその光りが稲妻、音が雷鳴である。

放電する時、空気の一部が激しく熱せられ、その部分の空気が急に膨張して空気の密度が違うところができる。それは空気の疎密波であり音波である。だから雷の時に聞こえるわけである。遠くで鳴るカミナリがゴロゴロと聞こえるのは、遠くでおこった音波が、あちこちの山とか雲とかに反射して聞こえるのである。

12. 雷さまの色々

雷現象のもととなる雷雲（積乱雲）の発生は、強い上昇気流である。この気流の発生は季節、時間、地形、場所等によって各々異なっている。例えば平野部と山

間部、日本海側と太平洋側、日本と外国に於ても、雷雲の発生状況が違うため雷の状態、内容に特色がある。

13. 雷さまの電気之力

雷雲が空気の絶縁を破って、地表面と放電（1/1000秒間程度）する際は、数千万ボルトから1億ボルトで電撃電流は数千～20万アンペアである。6千ボルト高圧配電線の標準絶縁は80千ボルトで、雷さまの力はその数千倍で比較にならないほど大きな値である。

電気設備の機器が壊れるのは、雷さまの超超大電圧、電流による放電アーク熱のためと言われている。また、雷の瞬時、超超大電圧、電流を正確に測ることは非常に難しく測定器もごく限られたもので、おおよその値を知ること、その結果から推定しているのが世界の現状である。

ところで、雷による電気被害は、希に発生する雷の直撃によるものが2%前後、雷の誘導による被害が98%前後である。各電力会社は配電線に、平均300～500m間隔で避雷器を取付けて誘導雷による被害を防ぐべく努力している。

しかし、現在の技術では直撃雷を防ぐことはできないし、誘導雷も防ぎきれない。それほど自然の力は大きいのである。

[番外編]…夏の風物詩・雷さまの話し

1. 雷さまと「おへそ」

むかしむかし、大和の国に「あじゃり様」という、勇ましいお坊さんがいました。ある夏のこと、雷が毎日ゴロゴロと空で太鼓を鳴らし、うるさくてしかたありません。そのうえ、稲光りを落として

は火事を起こしたり、人を傷つけたりのいたずら三昧。ついに腹を立てた「あじゃり様」は、呪文で雷を地上に引きずり下ろし、法力で動かなくしてしまいました。そして「こら、雷め！地上の者たちの迷惑がわからんのか。お前の罪はどんなに重い罪を与えてもまだ足りんほどじゃ。だが雷よ、もしお前が心を入れ替え、人々に迷惑をかけないと言うなら許してやらんことはない」と言ったのです。すると雷は「二度としません。ごめんなさい」と、ペコペコ謝るのです。しかし「あじゃり様」は、約束の印を取ることも忘れません。「それでは、お前のへそを置いてゆけ」と言いました。なにしろ呪文を使えば何でもできる「あじゃり様」。雷と言えども逆らえず、率直に「へそ」を置いて空に帰ってゆきました。でも雷は「おへそ」のない腹を見る度にくやくてなりません。とは言え、恐い「あじゃり様」には二度と近づけず、しかたなく人間の「おへそ」で我慢することにしました。

雷は雲の上から地上を見渡しては、「おへそ」を出している人間を探し始めたのですが、探せど探せどそんな人はどこにも見当たりません。それもそのはず、雷が人間の「おへそ」を狙っていることを知らない人は、大和の国中探してもいなかったのですから。

2. 雷さまと「クワバラ、クワバラ」

大阪の桑原という村でのこと、一人の娘が井戸のそばで洗濯をしていると、今にもひと雨きそうな気配です。大急ぎで最後のすすぎにとりかかりました。そこ

を雷さんが通りかかり、ひょいと下界を見下ろすと、たいそう美しい娘が、すそをからげて大奮闘しているではありませんか、雷さんは娘に見とれているうちに、ついうっかり雲から足を滑らせてドドーンと娘の前の井戸に落ちてしまったのです。普通の娘なら気絶してしまうところですがこの娘は気丈夫。たらいを井戸にかぶせて、上から押さえつけてしまいました。さあ困ったのは雷さん、「助けてくれえ、もうこの村には落ちないから」と泣かんばかり、それを聞いた娘は「ここは桑原という村だよ。二度と落ちて来ちゃいけないよ」と念をおして、雷さんを井戸から出してやりました。だから今でも雷が鳴りだしたら「クワバラ・クワバラ」と唱えれば、そこには絶対に落ちて来ないそうなの。雷も美女には弱いよう

ですね。

3. 雷さまと「雷鳥」

雷を予知する鳥を知っていますか？その鳥は、特別天然記念物にも指定されている雷鳥です。昔は、この鳥を追い回したり石を投げると、神様の罰を受けると言われたくらい、その不思議な力が信じられていました。というのも、この鳥が鳴き終わると同時に夕立が始まり雷が鳴ることが多かったからです。昔の人々は「きっとこの鳥には、雷が落ちることを前もって感じる力があるにちがいない」と考え、この鳥を雷鳥と名付けました。そして雷も、自分を予知するこの鳥を恐れていたといひます。雷鳥の絵を雷よけのお守りに持っていれば、その人のところへは雷は決して落ちなかったとか。

【おわり】

例会案内

三条RC	6月5日例会	クラブフォーラム
	6月12日例会	卓話 渋谷正一会員
	6月19日例会	早朝例会 AM5:30~ 於 本成寺
三条南RC	6月3日例会	創立記念例会
	6月10日例会	クラブアッセンブリー
	6月17日例会	クラブアッセンブリー
三条北RC	6月4日例会	クラブアッセンブリー
	6月11日例会	ファイヤーサイド報告会
	6月18日例会	クラブアッセンブリー